

観察評価表

患者・利用者名	評価年月日	年	月	日	評価者
食形態 (コード)	()	()	()	()	()
姿勢・その他の条件					
1 口角の左右非対称な運動 ・ない ・ある	0 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/>				
2 嚥下 (飲み込み) ・遅延するが可能 ・可能	0 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/>				
3 むせ ・むせる ・むせない	0 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/>				
4 頸部聴診 ・異常音あり ・異常音なし	0 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/>				
5 流涎 ・ある ・ない	0 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/>				
6 声質の変化 ・ある ・ない	0 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/>				
7 呼吸観察 ・浅く速くなる ・変化なし	0 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/>				
8 口腔内残渣 ・ある ・少量ある ・ない	0 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/>				
9 口腔内残渣をうがいで出せるか ・うがいができず出せない ・うがいするが不十分 ・うがいで出せる	0 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/>				
判定	可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/>				
コメント					

観察評価表の記入説明

■ 食形態ごとに縦一列の欄を使ってください。

「食形態」の欄に食形態・食品名やコード等（下記参照）を記入します。

- ・液体： とうもろこし液体、とうもろこし（薄とうもろこし・中間のとうもろこし・濃いとうもろこし）付き液体
- ・コード1： 均質、ゼリー・ムース・プリン状のもの
- ・コード2-1： 均質なピューレ、ペースト、ミキサー食などスプーンですくって食べる
- ・コード2-2： やわらかい粒等を含むピューレ、ペースト、ミキサー食などスプーンですくって食べる
- ・コード3： 形はあるが舌と口蓋（上あご）間で押しつぶしが可能なもの
- ・コード4： 箸やスプーンで切れるやわらかさ、歯がなくても対応可能だが上下の歯ぐきの間で押しつぶす、あるいはすりつぶすことが必要で、舌と口蓋（上あご）間で押しつぶすことは困難
- ・常食

「姿勢・その他の条件」欄

車イス座位、ベッド上（リクライニングの有無）、他に姿勢の工夫などをした場合は、その旨記入しておきましょう。

観察のポイント：適宜、解説動画をご参照ください。

- 口角の左右非対称な運動：咀嚼ができているかどうかを外観から判別します。咀嚼時に口角の運動に注目し、左右非対称な運動がみられるかどうかを観察します。
<解説動画 B,C,D 参照>
- 嚥下（飲み込み）：嚥下できるかどうかを外観（喉頭挙上の有無）で判別。<解説動画 A 他参照>
遅延： 液体：2秒以上、 とうもろこし付き液体：3秒以上、 コード1：3秒以上、
コード2：3秒以上、 コード3：15秒以上、 コード4と常食：20秒以上
を遅延とします。
- むせ：嚥下前、嚥下中、嚥下後を通じて、むせるかどうかを観察します。
軽く、小さく、ひっかかるような咳がある場合もむせると判断します。<解説動画 I, J 参照>
- 頸部聴診：嚥下前後の呼吸音と嚥下音を聴き、嚥下音や嚥下後の呼吸音の異常の有無を判断します。
長い嚥下音や弱い嚥下音、嚥下時の泡立ち音やむせに伴う喀出音、嚥下直後の濁った湿性音、嗽音、
液体の振動音などの異常音の有無を評価します。<解説動画 E 参照>
- 流涎：口に取り込んでから、咀嚼中、嚥下時を通じて流れ出る涎を確認します。
- 声質の変化：飲み込み前後に「えー」と声を出してもらい、湿性嗄声などの変化の有無を確認します。
高い声をだしてみると確認しやすいです。<解説動画 B,C,D 参照>
- 呼吸観察：食事中に呼吸の状態に変化があるかどうかを観察します。
特に嚥下後に速く浅くなるかどうか、上胸部から肩のあたりの動きに注目します。
<解説動画 A,B,C,D,J,K 参照>
- 口腔内残渣：嚥下後の口腔内の残渣を観察します。
「少量ある」は、歯の間や残渣部分などへこみの部分にかけら程度がある状態、
「ある」は粘膜の平滑な面にも残存している場合や、明らかに大きなものが残存している状態を指します。
- 口腔内残渣をぶくぶくうがいにより出せるかを評価します。
うがいにより出せたが、ごくわずか（健常者でも残存する程度）残渣が残っている場合は「出せる」とします。

判定 再下欄に食形態ごとに、経口摂取可能かどうかの判定を記載します。

その他何かあればコメント欄に記載しておきます。